「学連という組織」

関西学生卓球連盟　副幹事長　神原龍二

この度は、第７回「日学連アゴラ」に掲載していただけることを、この場をお借りして感謝申し上げます。

　私は現在３年生で、１年生の秋から関西学連に入りました。初めの方はなにをしたらいいのかもわからず、ただ言われたことをやっているという感じでした。そのころは何のために学連に入ったのかわからない状態でした。徐々に仕事内容がわかっていき、次にしなければいけないことなどを考えることができ、楽しくなってきました。

　それまで、中学、高校では選手という立場で活動してきて、大学では選手のために働くという立場に変わり不安や戸惑いも多かったです。学連に入って２年たった今、学連に入ってよかったと思えるようになりました。自分から進んで学連に立候補する人がいる中、私は大学の先輩に声をかけられて入りました。自分自身では絶対に自分から学連に入ろうとは思っていなかったので、声をかけられてよかったと今では思っています。

　学連という組織はいろいろな大学、普段関わることのない人たちと関わることになります。そういった中でみんなと協力していき、大会運営をしていくことが重要になってくると考えます。

　10月20日より関西学連主管で全日学が開催されます。関西学連では以前と比べると人数も少なく全国大会を運営したことある人も少ないです。それだけでなく新型コロナウィルス感染もまだまだ収まっていない状況ですので、運営がより難しくなってくると考えます。そういった不安を取り除くためにも事前に準備をしておくことは大切だと思います。各役職ごとにマニュアルを作成し、誰が見ても仕事内容がわかるように準備していき大会を成功させようと思います。

　私自身、学連として働くのはあと１年あるので今回の全国大会をきっかけにもっと成長していきたいと考えています。

最後まで読んでいただきありがとうございました。